

「アインシュタインの悩み」

校長 吉田 享平

今から90年ほど前、第二次世界大戦直前の1932年、物理学者アインシュタインが、精神分析学者フロイトに宛てて、「人間を戦争というくびきから解放することはできるのか」を問う一通の手紙を書きました。アインシュタインは「人間には、憎悪に駆られ、相手を絶滅させようとする本能的な欲求が潜んでいる」「人間の心の中にこそ、戦争の問題の解決を阻むさまざまな障害がある」と捉え、心の専門家であるフロイトに「人間の心を特定の方向に導き、憎悪と破壊という心の病に冒されないようにすることはできるのか?」と問いかけました。(両者の往復書簡は『ひとはなぜ戦争をするのか』というタイトルで出版されています) 日々の授業をはじめ、上ノ国高校の各種教育活動では「対話」による言語活動を重視しています。学年を超えた生徒間の対話。教師との対話。地域のさまざまな大人との対話。こうした対話活動の積み重ねは、生徒会主催の「いじめ根絶討論会」「ふるさと高校生議会」「地域探究学習」「各種ボランティア活動」「KEEPによる国際貢献活動」「海外研修」「校則検討委員会」等での取組状況に反映されています。アインシュタインは意見や利害が対立したとき、一方的な力や支配による解決に依存せず、「人の心への教育」という方法でアプローチすることでもできるのではないかと考えていました。教育や文化の発展を通じて生徒の心の中に「平和のとりでを築く」ことの意味にますます重みが増しています。

「マチ×ヒト みらい会議」

1学年担任 宮本 亜未

8月23日(水)に1学年地域探究学習の一環として、「マチ×ヒト 協働みらい会議」を実施しました。

地域で活躍する8名の方をお招きし、高校生とともに、上ノ国町の現状や上ノ国町をより良くするためには、「自分達に何ができるか」など、意見交流を行いました。終始和やかな雰囲気の中で行われた本会議では、生徒たちにとっては当たり前感じていた「上ノ国町は優しい・温かい人達が多い」ということに、話し合いを通じて気付いたり、町の魅力の再認識に繋がる大変貴重な機会となりました。



「体育文化大会」

生徒会担当 三浦 健太郎

9月27日(水)に「体育文化大会」を実施しました。

前期の生徒会執行部にとって最後の主催行事となりました。

体育の部では、ミニバレーやバスケットボールなどの恒例種目の他に、種目アンケートで人気があった卓球を行いました。卓球は、経験者が多いこともあり、白熱した試合が展開され、終始大きな歓声が上がっていました。

文化の部では、昨年度から取り入れた「eスポーツ」や「ボッチャ」など、誰もが楽しめる種目を行い、大いに盛り上がりしました。

大きな怪我もなく、全校生徒の笑顔が溢れる体育文化大会を無事に実施できたことを非常にうれしく思います。



「海外研修」

10月29日(金)～11月4日(土)の期間、ニュージーランドで実施した「海外研修」に、5名の生徒が参加しました。

生徒たちは、現地の方々と交流する中で、英語を使いコミュニケーションをとろうとする姿勢や、多くの体験を通して学ぼうとする姿勢が見られました。

帰国後の生活では、英会話動画を活用して勉強したり、上位級の英語検定に挑戦するなど、海外研修をきっかけとして「積極的に英語を学ぼうとする意欲」が高まりました。

12月5日(火)に実施した「海外研修報告会」では、未来を支える小・中学生に向けて、研修の成果を発表しました。

ESD委員会 平塚友理



心の授業 8月30日(水)

10月30日(火) 11月29日(水)

スクールカウンセラーの先生から、たくさんの「キーワード」や「気づき」をいただきました。



学校企業訪問

10月4日(水)

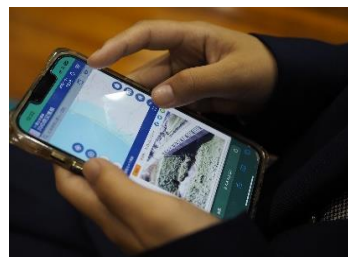
「函館大学」と「函館どつく株式会社」を訪問し、進路選択の視野を広げる機会としました。



1日防災学校

10月12日(木)

上ノ国町役場庶務防災グループの方に御協力いただき、情報の活用等について学びました。



保育実習

10月24日(水)

「子どもの発達と保育」における体験学習を、上ノ国保育所で実施しました。



ふるさと高校生議会

11月10日(金)

町の課題を自分事として捉え、高校生だから考えられる視点で提言をしました。



校則検討委員会

校則という生徒にとって身近なルールについて、誰もが参加でき、本音を気兼ねなく発言できる形で、熟議を重ねています。



○本校では、学校で行われる様々な取組を紙面だけではなくホームページでも公開しています。是非ご覧ください。
○次回の「上高彩時記」は3月下旬に発行予定です。

上ノ国高等学校
ホームページ更新中
QRコードを読み取って
ください!!

